

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第34集

ひびのき岡ノ神母遺跡

町民グラウンド防球ネット新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.9

土佐山田町教育委員会

ひびのき岡ノ神母遺跡

町民グラウンド防球ネット新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.9

土佐山田町教育委員会

序

本県最大の穀倉地帯を誇る香長平野の東端に位置する土佐山田町は、四万十川、仁淀川と並ぶ県下三大一級河川のひとつである物部川の悠久の流れに抱かれ、歴史と文化を培ってきました。日本でも有数の石灰岩の鍾乳洞である龍河洞をはじめ、江戸時代に香長平野を潤すため野中兼山が指揮し建造した山田堰など数多くの文化財があります。また、土佐打刃物や高知県東部特有の染物であるフラフの生産などすばらしい歴史と文化を受け継ぎ次代へ伝承することは、現代の我々に課せられた責務であると考えます。

今回調査を実施した楠目地区には、ひびのき遺跡やひびのきサウジ遺跡をはじめとする全国的に著名な弥生時代の集落跡があります。このたび報告書として刊行することになりました本書が、今後の研究や文化財保護思想の普及の助けとなり、先人の残した歴史遺産を将来守り伝えていくきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、高知県教育委員会、高知県文化財団埋蔵文化財センター、地元関係者の方々をはじめ発掘調査から整理作業に至るまでにご協力いただきました皆様に対し、厚くお礼申しあげます。

平成16年9月24日

土佐山田町教育委員会

教育長 原 初恵

例　　言

1. 本書は、上佐山田町民グラウンド防球ネット新設工事に伴う事前の発掘調査についての報告書である。
2. 遺跡は、高知県香美郡土佐山田町に所在する。
3. 調査期間
　　試掘確認調査は平成15年9月26日から9月30日、発掘調査は同年10月15日から10月28日まで実施した。
4. 調査は土佐山田町を事業主体とし、土佐山田町教育委員会が行った。
5. 調査対象面積　　5,600m²
　　発掘調査面積　　75.6m²
　　うち、試掘確認調査面積は20m²、本発掘調査面積は55.6m²である。
6. 本書の執筆は小林麻由（土佐山田町教育委員会社会教育課）が行った。
7. 遺構については、SK（土坑）、SX（性格不明遺構）、SR（自然流路）、P（柱穴）で表示した。
8. 発掘調査及び本報告書を作成するにあたっては、池澤俊幸氏、坂本裕一氏（高知県教育委員会文化財課）、出原恵三氏、山本哲也氏（財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター）にご助言、ご教示をいただいた。記して謝意を表したい。
9. 発掘作業及び整理作業には下記の方々に従事していただいた。記して謝意を表したい。
　　発掘調査
　　加治宣子、公文章仁、坂田昌成、佐々木龍男、竹崎芳子、竹村君子、中沢英子、古谷廣海
　　整理作業
　　高橋加奈、竹崎寛将、宗石祥一
10. 出土遺物については、「03-2-YO」（試掘確認調査）及び「03-4-YKO」（発掘調査）と注記し、関連図面・写真とともに土佐山田町教育委員会で保管している。

本文目次

| | |
|------------------|----|
| 第Ⅰ章 調査に至る経過 | 1 |
| 第Ⅱ章 周辺の地理的・歴史的環境 | 2 |
| 第Ⅲ章 調査の概要 | 6 |
| 第Ⅳ章 遺構と遺物 | 10 |
| 第Ⅴ章 まとめ | 14 |

挿図目次

- Fig. 1 高知県の市町村と上佐山田町の位置
Fig. 2 周辺の遺跡分布図 ($S = 1 / 25,000$)
Fig. 3 調査区位置図
Fig. 4 調査区南壁土層断面図、試掘トレンチ 1・3・5 断面図
Fig. 5 試掘確認調査出土遺物実測図
Fig. 6 出土遺物実測図
Fig. 7 調査区平面図

挿表目次

- Tab. 1 ひびのき岡ノ神母遺跡と周辺の遺跡一覧表
Tab. 2 遺物観察表

図版目次

- PL 1 〔試掘〕TR 1、2 土層断面
PL 2 〔試掘〕TR 3～5 土層断面
PL 3 調査風景、南壁土層断面
PL 4 遺物出土状況、遺構検出状況
PL 5 出土遺物（弥生時代後期土器）

第Ⅰ章 調査にいたる経過

ひびのき岡ノ神母遺跡は、長岡台地の東端部に位置する遺跡である。

昭和58年度に地域スポーツ振興対策事業土佐山田町民運動場整備工事のため、町民グラウンド（当時は鏡野中学校校庭遺跡の名称で呼ばれていた）内において、建設機械による掘削が行われている。

この時は掘削した溝の地層断面の記録と掘削土中からの遺物採集にとどまっており、遺構の検出は不可能だったが断面を観察した結果、旧地形の傾きと遺物包含層の堆積状況について推定している。

報告書によると、「旧地形は西に向かって下降しており、遺物包含層や意向は反対に東に向かって広がりひびのき遺跡に統一している」とある。また、昭和58年度以前にもプール建設時及び武道館建設時に背後の小倉山斜面を掘削した際に、弥生土器片の出土があったことが報告されている。

平成15年度に防球ネットの老朽化に伴い、新設工事が実施されることとなったため、遺跡の影響は避けられることとなった。

平成15年9月26日から30日にかけて試掘確認調査を実施しており、遺物包含層及び遺構等の有無を調査した結果それらを確認した。

土佐山田町教育委員会は開発部局との協議を行い、工事着手前の11月下旬までを期限として本調査を開始した。発掘調査期間は平成15年10月15日から10月28日まで実施し、調査区域は町民グラウンドの南西端に一ヵ所設定した。



Fig. 1 高知県の市町村と土佐山田町の位置

第Ⅱ章 周辺の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

土佐山田町は、高知県の中東部に位置し、行政区画では香美郡に属する。剣山を源とする物部川によって形成された本県最大の扇状地である香長平野の北端部にあり、70%を森林地帯が占める。

高知市より東に18km、北は大豊町と本山町、西は南国市、東は香北町、南は野市町に接しており、広さは東西に12.4km、南北10.5km、面積116.46km²であり、人口は21,635人（平成16年6月）を有する。

地質の特徴としては、西南日本外帯の秩父帯に位置することがあげられる。

四国の秩父帯は、大樽－杉田構造線、神原谷－岩改構造線によって3カ所に分類される。土佐山田町は地域の過半部、3カ所のうち最北端にあたる秩父帯北帯に位置し、その南部は中帯及び南帯に位置する。

また、国の天然記念物及び史跡として指定をうけている龍河洞は、虚空蔵山層群（三晉系）の石灰岩体に発達しており、日本の代表的な洞穴生物が生息する鍾乳洞として有名である。

天狗岳不整合は、町西部の甫喜ガ峰（標高611m）に端を発し浦戸湾に注ぐ新改川（国分川）右岸の新改地区でみられ、県天然記念物に指定されている。休場層（古生代二疊紀）チャートの上に領石層（中生代白堊紀）の基底礫岩が堆積しており、休場層の堆積後九千年間陸上にあって再び沈降して、そこに領石層が堆積し不整合を形成した。

全体の地層が北に70~80度の傾斜を示して逆転しており、領石層の上に休場層が堆積しているかのように見えるのが特徴である。

第2節 歴史的環境

縄文時代は、県西部に遺跡が多く分布する。仁淀川水系の不動ガ岩屋洞穴遺跡（佐川町）や四万十川水系に属する十川駄馬崎遺跡（十和村）、木屋ガ内遺跡（大正町）などで早期押型文土器、厚手無文土器が出土している。

近年では、香長平野を流れる物部川流域左岸の刈谷我野遺跡（香北町）より早期に属する遺構及び縄文土器片が多く確認されている。

また、吉野川上流にあたる穴内川流域の飼古屋岩陰遺跡、新改川流域の開キ丸遺跡でも早期押型文土器及び無文厚手土器の出土が確認された。開キ丸遺跡は後世のかく乱等の乱れが少なく、層位的な遺物取り上げがなされた遺跡のひとつである。黄島式併行期の土器が確認されているが、全体的には無文厚手土器の割合が多い。

同じく吉野川水系の縄文時代の遺跡として知られているのは奥谷南遺跡（南国市）である。中期に属する堅果類貯蔵穴が8基検出されている。

前期初頭土器、晚期前半土器及び貯蔵用ピットが検出された美良布遺跡（香北町）では、竪穴住居址は検出できず、掘立柱建物が存在した可能性が指摘されている。

弥生時代は、物部川下流域に位置する田村遺跡群（南国市）に代表される前期の集落が県内各地に出現し始めたを契機として、前期末頃より多くの弥生集落が出現する。土佐山田町において弥



Fig. 2 周辺の道路分布図 (S = 1/25,000)

| No. | 遺跡名 | 時代 | No. | 遺跡名 | 時代 |
|-----|------------|-------|-----|----------|-------|
| 1 | ひびのき岡ノ神母遺跡 | 弥生～中世 | 16 | 前ノ芝遺跡 | 弥生～平安 |
| 2 | ひびのきサウジ遺跡 | 弥生～近世 | 17 | 郷本遺跡 | 弥生・古墳 |
| 3 | 伏原遺跡 | 弥生～平安 | 18 | 宮田遺跡 | 弥生～近世 |
| 4 | 鏡野字園古墳 | 古墳 | 19 | 雪ヶ峰城跡 | 中世 |
| 5 | 小倉山古墳 | 古墳 | 20 | 山田堰 | 近世 |
| 6 | メウカイ遺跡 | 弥生～中世 | 21 | 林田シタノチ遺跡 | 縄文～近世 |
| 7 | ひびのき遺跡 | 弥生～近世 | 22 | 林田遺跡 | 弥生～中世 |
| 8 | ひびのき大河内遺跡 | 弥生～近世 | 23 | 加茂神社西遺跡 | 古墳～中世 |
| 9 | 伏原大塚古墳 | 古墳 | 24 | 原遺跡 | 弥生～近世 |
| 10 | 大塚遺跡 | 弥生～近世 | 25 | 高柳遺跡 | 弥生～中世 |
| 11 | 楠目城跡 | 中世 | 26 | 高柳土居城跡 | 中世 |
| 12 | 田所神社遺跡 | 弥生～中世 | 27 | 町田堰東遺跡 | 縄文～中世 |
| 13 | 楠目遺跡 | 弥生～近世 | 28 | 町田遺跡 | 弥生～中世 |
| 14 | 稲荷前遺跡 | 弥生～近世 | 29 | ガニウド遺跡 | 古墳～中世 |
| 15 | 大西土居遺跡 | 弥生 | 30 | 加茂遺跡 | 古墳～中世 |

Tab. 1 ひびのき岡ノ神母遺跡と周辺の遺跡一覧表

生時代の遺跡が確認されたのは、高地性集落及び洞穴遺跡が出現する中期に至ってからである。

後者に属する龍河洞洞穴遺跡は、鍾乳洞の洞穴内に炉跡を伴う居住スペースが確認されている。

後期にさしかかると、遺跡数は劇的に増加する。ひびのき式土器の標準遺跡となったひびのき遺跡では、弥生後期中葉（ひびのきI式土器）から弥生後期末（ひびのきII式土器）の遺物が出土し、ベッド状遺構を伴う隅丸方形の堅穴住居址が検出された。

原南遺跡は弥生時代中期後半から近世に至る複合遺跡である。弥生時代中期としては初の出土例となった高床倉庫が検出されている。

また、ひびのきII式土器が多く出土しているひびのきサウジ遺跡では、堅穴住居址と甕棺墓9基が検出された。弥生時代後期の集落と墓制を研究するうえで貴重な資料である。なかでも、ST8では譜岐からの搬入品を含め良好な資料が多数出土している。

弥生時代後終末から古墳時代前期初頭と位置づけられる五軒屋敷遺跡（南国市）では、弥生時代後期終末の上塙墓、古墳時代前期初頭の堅穴住居址2棟が確認された。物部川下流の左岸に位置する下ノ坪遺跡（野市町）でも後期に属する堅穴住居址が検出されており、出土遺物には譜岐からの搬入品もみられた。また、古墳時代後期の住居址と住居に付隨するカマドが報告されている。

古墳時代には一辺34mの大型古墳で、全国にも類例がない円筒埴輪が周溝から出土している伏原大塚古墳をはじめとして、須江ツカアナ古墳など平地に古墳が築造されている。

古代になると、新改・植・須江地区の山麓部に窯跡が多く造られた。現在40数カ所確認されており、比江廃寺跡（南国市）の瓦を焼成したタンガン遺跡や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷遺跡が存在する。

また、「大領」の地名が残る物部川右岸の大領遺跡は、古代香美郡の官衙推定地と考えられている。

中世に山田氏が楠目城を拠点として領主制支配を展開するが、天文年間には長宗我部氏に攻められて滅亡した。平成9年度に確認調査を実施し柱穴を伴う曲輪の存在が確認されている。

新改川右岸では、国産陶磁器及び貿易陶磁が出土した集落跡である南ヶ内遺跡、屋舗田丸遺跡が存在する。河岸段丘上に位置する当該地は、この新改川を利用して国分寺、浦戸に至る下流域まで物資運搬をしていたことが想定できる。

《参考文献》

『土佐山田町史』(1979)

森田尚宏『銅古屋岩陰遺跡』(1983) 高知県教育委員会

松村信博・山本純代『奥谷南遺跡Ⅰ』(1999) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

出原恵三『美良布遺跡』(1991) 香北町教育委員会

岡本健児他『龍河洞』(1974) 龍河洞保存会

岡本健児・広田典夫『ひびのき遺跡』(1977) 土佐山田町教育委員会

出原恵三『原南遺跡発掘調査報告書』(1984) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

下村公彦・角谷和男『五軒屋敷遺跡調査報告書』(1984) 高知県教育委員会

高橋啓明『ひびのきサウジ遺跡』(1990) 土佐山田町教育委員会

小松大洋・池澤俊幸・出原恵三『下ノ坪遺跡Ⅰ』(1997) 野市町教育委員会

廣田佳久『伏原大塚古墳』(1998) 土佐山田町教育委員会

中山泰弘『梅目城跡（山田城跡）』(2002) 土佐山田町教育委員会

小林麻由『屋舗田丸遺跡』(2001) 土佐山田町教育委員会

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 調査の方法

事前に試掘確認調査を実施し遺構及び遺物が認められたため、遺物包含層が残るTR2周辺に調査区を設定し、平成15年10月15日より本調査を開始した。

グラウンド南は当初、樹木が生い茂り防球ネットを覆っていた。しかし、東進してくるあけぼの道路に接する地点であり既存の防球ネットを内側に移動する作業を行うため、調査期間中に樹木の除去作業が行われた。

試掘確認調査により搅乱層の堆積及び昭和59年に設置した排水溝の存在が確認されたため、これを回避しつつ搅乱層の除去を重機により行い、その後は人力掘削に切り替えた。

遺構及び層序の実測は20分の1縮尺で行った。

第2節 試掘確認調査結果について

平成15年9月26日～30日にかけて実施し、5カ所を調査した。

結果は下記のとおりである。

《TR1》

グラウンド西端に設定し、調査したトレンチである。

表土下0.9mまで搅乱をうけており、埋土にはガラス片が混入している。また、表土下20cmの位置に排水溝が設置されていたため、位置をずらして調査を続行した。

搅乱層の下に遺物包含層の堆積が見られる。弥生土器片が出土している。

《TR2》

TR1の南に設定し、調査したトレンチである。TR1と同様に搅乱を受けているが遺物包含層は残っている。溝状遺構が検出されており、その底辺の砂礫層からは弥生土器がほぼ完形で出土した(Fig. 5)。遺物包含層はⅨ層で、出土遺物はいずれも弥生土器である。

《TR3》

TR2の調査結果をふまえ、TR4との間に設定し調査したトレンチである。遺物包含層が2層堆積しており、遺物を多く含むが遺構は確認できなかった。

《TR4》

TR3の東に設定したトレンチである。ほぼ水平堆積を呈し、表土下0.4mの位置に黒ボク及び遺物包含層が認められた。なお、黒ボク層からは弥生土器の底部が出土している。外面に縦方向のハケ調整痕を施す。

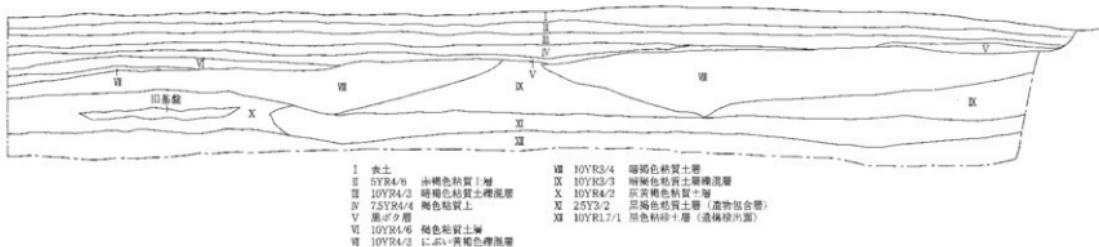
《TR5》

TR4の東に設定したトレンチである。トレンチ内の西側に建物の基礎と考えられるコンクリートとパラスが確認された。表土下11mから下には、しまりがある褐色シルトが堆積している。遺物、遺構は確認されていない。

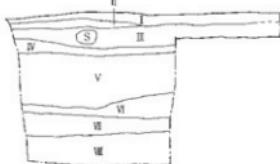


Fig. 3 调查区位置图

図版区南壁土層断面

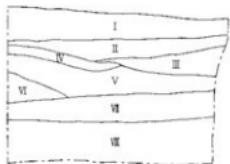


TR1 北壁土層断面



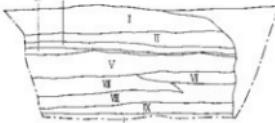
- I 表土
II 10YR5/6 黑褐色粘質土層
III 10YR5/6 黑褐色粘質土層
IV 10YR4/3 にいよいよ粘質土層
V 10YR2/1 黒色粘土層(角離度じる、擾乱層)
VI 10YR3/2 細緻色粘質土層
VII 10YR3/2 黑褐色粘質土層(灰、上器片混じる)
VIII 10YR2/3 黑褐色粘質土層(遺物包含層)

TR3 南壁土層断面



- I 10YR5/8 細緻色粘質土層(水土)
II 10YR4/3 細緻色粘質土層
III 10YR4/3 細緻色粘質土層
IV 5YR5/8 黑褐色粘質土層(泥)
V 10YR2/3 黑褐色粘質土層(しまり加し)
VI 10YR3/2 黑褐色粘質土層(しまり無し)
VII 10YR2/3 黑褐色粘質土層(遺物包含層)
VIII 10YR2/1 黑褐色粘質土層(遺物包含層)

TR5 東壁土層断面



- I 10YR6/6 表土(グラウンドの土)
II 10YR4/3 黑褐色粘質土層(赤褐色土が筋状に挟まる)
III 10YR6/6 黑褐色粘質土層(赤褐色土が筋状に挟まる)
IV 黒中クモ(砂の網じる)
V 10YR2/2 黑褐色粘質土層
VI 10YR2/3 黑褐色粘質土層
VII 10YR2/2 黑褐色粘質土層
VIII 10YR2/1 黑褐色粘質土層
IX 10YR4/4 黑褐色粘質土層
X 7.5YR2/3 細緻色粘質土層
※X層下はかなりしまりがある褐色シルトが複数している

(DL = 52.000m)
0 1m

FIG. 4 調査区南壁土層断面図、試験トレンチ1・3・5断面図

第3節 基本層序

本発掘調査の基本的な層序は以下のとおりである。

- I層：表土層（グラウンドの土）
- II層：赤褐色粘質土疊混層
- III層：暗褐色粘質土疊混層
- IV層：褐色粘質土層
- V層：黒ボク層
- VI層：褐色粘質土層
- VII層：にぶい黄褐色粘質土疊混層
- VIII層：暗褐色粘質土層
- IX層：暗褐色粘質土疊混層
- X層：灰黄褐色粘質土層
- XI層：黒褐色粘質土層（遺物包含層）
- XII層：黒色粘砂土層（遺構検出面）

II・III・V・VII・IX層についてはしまりがなくガラス片等を含む層で、搅乱されていると推測される。近世陶磁器片、土師質土器片も混入している。

遺物包含層としてとらえられるのはXI層で、弥生土器及び須恵器が出土している。

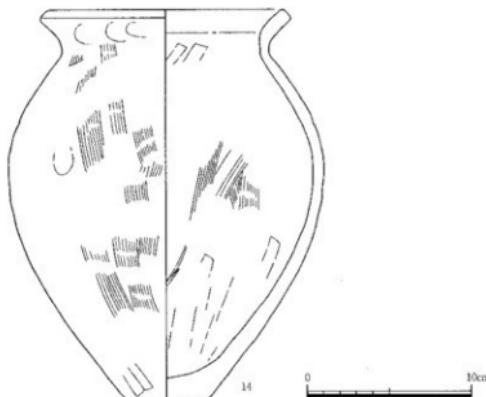


Fig. 5 試掘確認調査出土遺物実測図

第IV章 遺構と遺物

1. 検出遺構 (Fig. 7)

ピット状遺構と土坑が検出されたが、堅穴住居址は確認されなかった。

いずれの遺構も埋土は単純一層である。

(1) 土坑

SK 1

調査区南西端に位置する。形は梢円形を呈し、短径80cm、深さ23cmを測る。遺物は出土していない。

SK 2

SK 1 東に位置する。半分以上が調査区外に出ていると考えられる。断面はすり鉢状で径37m、深さ34cmを測る。底から砂岩と弥生土器3点が出土しており、このうち一点は弥生土器の底部である。粗粒砂を多く含む胎土で内外面ともに磨耗が激しい。平底を呈する。

SK 3

SK 2 東に位置する。長径13m、短径48cm、深さ17cmを測る。形は梢円形を呈する。遺物は出土していない。

(2) 柱穴

P 1

調査区南西端、SK 1 と隣接する柱穴である。径30cm、深さ10cmを測り、形は梢円形を呈する。埋土は黒褐色粘質土で、出土した遺物は弥生土器の細片1点である。

P 2

SK 1 とSK 2 の間に位置し、半分が調査区外に出ている。径20cm、深さ7cmを測る。埋土は黒褐色粘質土で、遺物は出土していない。

(3) 自然流路

SR 1

調査区東に位置する、東西に伸びる溝である。長さ7.5m、深さ約16cmを測る。埋土は黄灰色砂層である。調査中に水が湧き、溜まることがしばしばあった。

弥生土器片が多く出土しており、以下記述する遺物もすべてSR 1 から出土したものである。

2. 出土遺物について

今回の調査では、土坑及び柱穴から出土した遺物がいずれも細片であったり磨耗が激しいものであったりしたため、図示していない。

遺物包含層には須恵器片が数点含まれていたが、古墳時代の遺構が検出されなかつたことや古式土師器を伴わないことから流れ込みと考えられる。

弥生時代後期土器が多数を占める。土佐地域の編年に沿って分類し、V-1～3様式に該当する可能性が高いという結果を得た。

甕形土器 (Fig. 6)

1は口縁部で、口縁部外面下より縦方向にハケ調整を施した後で横ナデをした痕跡がある。内面にもハケ調整がみられる。口縁部内外面ともナデ調整が認められる。

2は胎土が在地産のものと比べて色調が黄色に近く、石灰岩など2~3mmの粗砂粒を含んでいる。調整は内外面とも丁寧で外面のハケ調整も密である。外面頸部及び外反した内面口縁部には強いナデ調整が施される。讃岐からの搬入品である可能性が高い。

3は丸みを帯びた胴部を呈する壺の底部である。内面は底部から胴部に向かってヘラケズリを施す。胎土にはチャートなど粗砂粒を多く含む。6は口唇部に2条の凹線文が巡る。外面は頸部に横方向のナデ調整を施している。

7は外面に縦方向のハケ調整を施している。底部は平底である。8は同じく底部で、外面には縦方向のハケ調整を施しており、内面には左下がりのヘラケズリが認められる。

9は外面に縦方向のハケ調整、内面下半には下から上に向かってヘラケズリを施す。平底である。

11は他の土器と比べて器壁が薄く、口縁部は上下に拡張しており頸部は「く」の字に強く外反している。口唇部には2条の凹線文が認められるがうち1条は途中で途切れる。口縁部内外面にナデ調整、胴部上半にはハケ調整がそれぞれ施される。

12は口縁端部が厚く作られており、内外面とも口縁部にナデ調整を施す。内面頸部には指頭圧痕が認められる。13も12と同様、内外面とも口縁部にはナデ調整が施される。

壺型土器・小型土器 (Fig. 6)

直口壺の口縁部（5）は口唇部外面が剥離しており、頸部より下には縦方向のナデ調整が施される。頸部より胴部に至る内面に指頭左痕が認められる。

10は小型壺型土器と考えられる。ひびのきⅡ式もしくはⅢ式に類する可能性がある。内外面とも磨耗が激しい。

土製支脚 (Fig. 6)

外面に横方向の調整が施され、内面及び底部が剥離している。支脚と考えられる。

3. 試掘確認調査出土遺物について

TR2より弥生後期土器がほぼ完形で出土している。外面には縦方向のハケ調整を施しており、頸部に指頭圧痕が見られる。内面は底部から胴部に向かってヘラケズリを施す。

V-2様式の壺と考えられる。

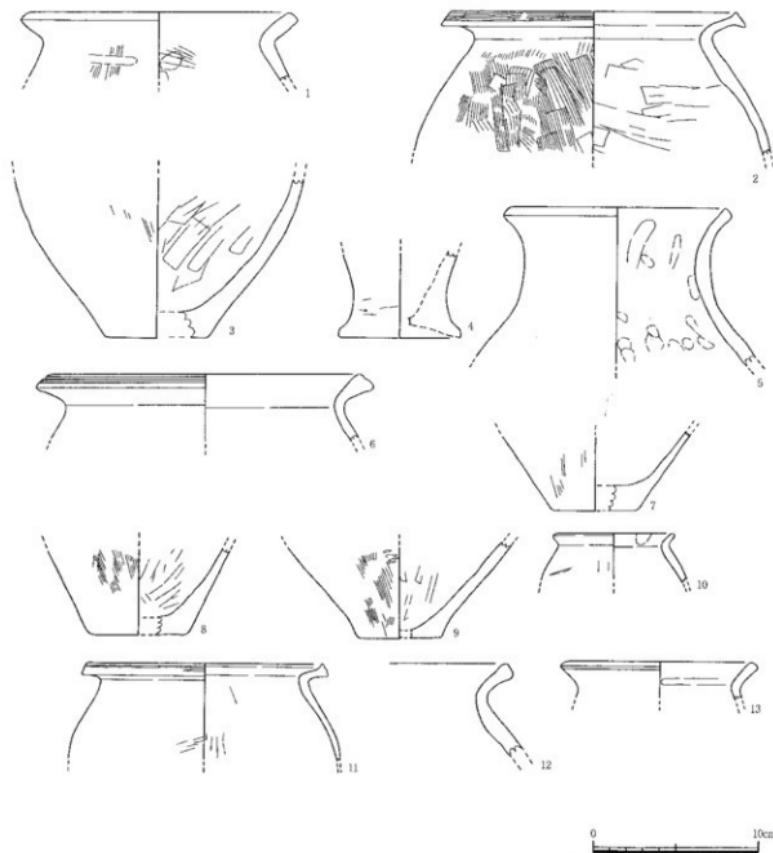


Fig. 6 出土遺物実測図

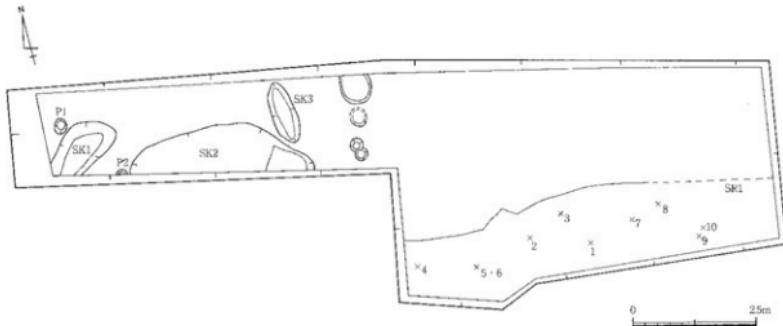


Fig. 7 洪水区平面図

| 遺物 No. | 発掘 図面 No. | 器種 | 法量 (cm) | | | | 手 法 | | 土 | 備考 |
|-----------|-----------------|-----|---------|-----|------|------|-------------------------------|-------------------------|--------------------|-------------|
| | | | 口径 | 底径 | 周径 | 高さ | 外 面 | 内 面 | | |
| 1 | Fig. 7 | 束 | 16 | | | | 縦方向のハケ調整+横方向のナデ調整 | 右下がりのハケ調整 | 粗砂粒多く含む | 上縁部外面に保行帶 |
| 2 | Fig. 7 | 甕 | 17.4 | | | | 横方向のハケ調整 | 横方向のヘラケズリ | チャート他の粗砂粒、家 具古び | 廻入品 |
| 3 | Fig. 7 | 甕 | 6.2 | | | | 右下がりのハケ調整 | 左下がりのヘラケズリ | チャート他の粗砂を多く 含む | |
| 4 | Fig. 7 | 支脚 | 7.4 | | | | 横方向の調整 | 削離している | チャート他の粗砂を含む | |
| 5 | Fig. 7 | 甕 | 13.2 | | | | 1) 壁部削離 頭部より下に縦方向のナデ 調整 | 頭部より下に削離を痕 跡 | チャート他の粗砂を多く 含む | |
| 6 | Fig. 7 | 甕 | 18.8 | | | | 口部に2条の凹痕を施す 横方向のナデ調整 | | 粗砂粒多く含む | |
| 7 | Fig. 7 | 甕 | 5 | | | | 縦方向のハケ調整 | | 粗砂粒多く含む | 底部平底 |
| 8 | Fig. 7 | 甕 | 5.4 | | | | 縦方向のハケ調整 | 横方向のヘラケズリ | 粗砂粒多く含む | 底部平底 |
| 9 | Fig. 7 | 甕 | 5 | | | | 縦方向のハケ調整 | 横方向(下→上)のヘラ ケズリ | 粗砂粒多く含む | |
| 10 | Fig. 7 | 小型甕 | 7.1 | | | | 縦方向のハケ調整 | | チャート他の粗砂を多く 含む | 内外面とも削離している |
| 11 | Fig. 7 | 甕 | 14.5 | | | | 口部に2条の凹痕を施す。 左下がりのハケ調整 | 縦方向のハケ調整 | 粗砂粒多く含む | |
| 12 | Fig. 7 | 甕 | | | | | 口縁部から腹部にかけて横 方向のナデ調整 | 頭部に指添圧痕 | 粗砂粒多く含む | |
| 13 | Fig. 7 | 甕 | 11.3 | | | | 頭部に横方向のナデ調整 | 口部部から腹部にかけて横 方向のナデ調整 | 粗砂粒多く含む | |
| 14 | Fig. 5 | 甕 | 14.4 | 4.7 | 19.4 | 24.1 | 縦方向のハケ調整 頭部に指添圧痕 | 縦方向(下→上)のヘラ ケズリ | 粗砂粒多く含む | |

Tab. 2 遺物観察表

第V章 まとめ

弥生時代後期終末から古墳時代初頭の集落跡であるひびのき遺跡、ひびのきサウジ遺跡と隣接する当遺跡は、昭和59年の工事途中に出土した遺物を採集し土層断面を確認している⁽¹⁾。結果、グラウンド東において地山層と遺構が認められた。これはひびのき遺跡との関連もうかがわせる現象である。

昭和59年当時の出土遺物は弥生時代後期土器及び古式土器が最も多く、器形はひびのきI式に該当する。500点数点が出土しており、弥生土器以外では須恵器、石器等がみられる。

土器を観察した結果、高台状の底部を有するV-4様式⁽²⁾、外面に横方向及び左下がりのハケ調整を施す、やや器壁の薄いV-5様式、底部外面にタタキ目を施すVI-1様式にそれぞれ分類できると考えられる小型鉢がある。他にはV-2様式またはV-3様式と考えられる壺の底部が出土している。

また、当遺跡の北に位置する小倉山斜面を施設建設のために掘削した際、弥生時代中期末から後期にかけての土器が少量出土している。

今回の調査では遺構が少なく当遺跡の全体を把握することは難しかったが、層位的な出土遺物の取り上げと、その製作時期について推定することができた。

出土した遺物の器形は壺が最も多く、壺、支脚も存在する。図示できなかった弥生土器片の中には外面にタタキ目を施すものも僅少だが混じっていることから、後期終末の集落が存在する可能性がある。

遺構は柱穴と土坑、砂と小礫が堆積するSR1が検出されている。弥生後期土器が多く出土したSR1は土層断面で確認したところ、流路の埋土（にぶい黄褐色砂礫層）の上に堆積する遺物包含層もSR1と同様に溝状の窪みを形成しており、この遺構が埋まつた後に同じ方向へ溝を掘った可能性も考えられる。

次に問題となるのが周辺の集落との関連である。ひびのき遺跡及びひびのきサウジ遺跡は共に隣接しており、いずれも後期終末に成立した集落である。前述したとおり、当遺跡の北に位置する山の斜面からは中期末の遺物が出土しており、高地性集落が営まれていたと考えられるが徐々に降りてきて集落を形成し後期終末に至って範囲を拡大したのではないかと考えられる。

物部川流域に展開する弥生時代の集落では、当遺跡の700m南に稻荷前遺跡が存在する。弥生時代中期後半から後期前半にかけての遺構及び遺物が確認されている。また稻荷前遺跡と同時期の遺跡として南西に約600mの位置に中期後半から後期終末にかけての住居址や溝状遺構が確認された原南遺跡がある。これらの遺跡と、ひびのき遺跡及びひびのきサウジ遺跡に先行する後期前半の土器が出土したひびのき岡ノ神母遺跡との関わりについて今後検討を重ねる必要がある。

《参考文献》

- (1) 出原忠三『鏡野中学校校庭遺跡』(1984年) 土佐山田町教育委員会
- (2) 菅原康大・梅木謙一編『弥生土器の様式と編年 四国編』(2000年) 土佐地域の様式による

写 真 図 版



調査区全景（北より）



〔試掘〕TR 2 設定（西より）



〔試掘〕TR 1 設定（南より）



〔試掘〕TR 2 遺物出土状況（北より）



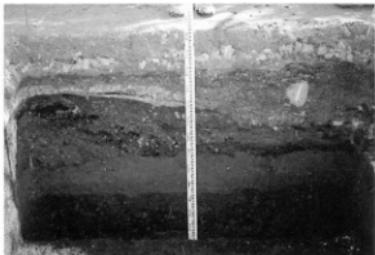
〔試掘〕TR 1 北壁土層断面（南より）



〔試掘〕TR 2 南壁上層断面（北より）



〔試掘〕TR3 設定（北より）



〔試掘〕TR4 南壁土層断面（北より）



〔試掘〕TR3 南壁土層断面（北より）



〔試掘〕TR5 設定（西より）



〔試掘〕TR4 設定（東より）



〔試掘〕TR5 東壁土層断面（西より）



調査風景（西より）



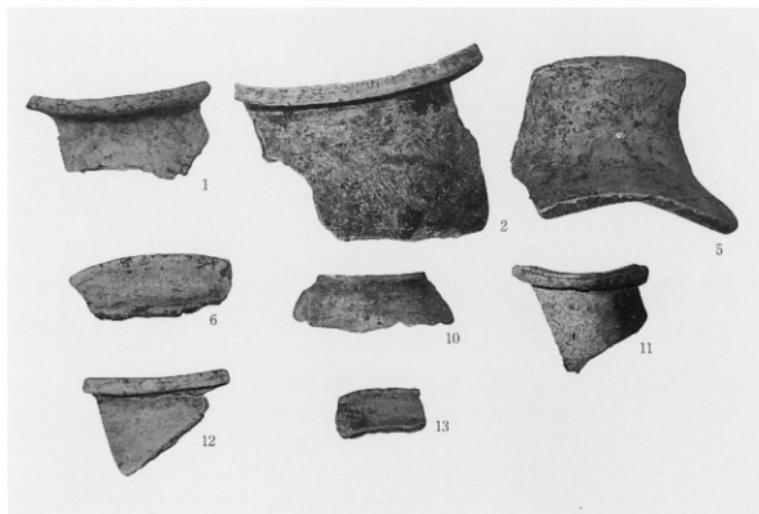
南壁土層断面（北より）



遺物出土状況（北より）



遺構検出状況（西より）



出土遺物（弥生時代後期土器）



出土遺物（弥生時代後期・壺）

報告書抄録

| ふりがな 書名 | ひびのきおかのいげいせき ひびのき岡ノ神母遺跡 | | | | | | | |
|------------------------------------|--|---------------|---------------------|----------------------|-----------------------------------|--|--|--|
| 副書名 | 町民グラウンド防球ネット新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 | | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第34集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 小林麻由 | | | | | | | |
| 編集機関 | 土佐山田町教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒782-0017 高知県香美郡土佐山田町岩積365-1 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 平成16年9月24日 | | | | | | | |
| ふりがな 所取遺跡 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 | 北緯 遺跡番号 | 東経 ° ° ° | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 | |
| ひびのきおかの ひびのき岡ノ いげいせき 神母遺跡 | こうちけん 高知県 かみくに 香美郡 こうみぐん 土佐山田町 とさやまだちょう くすの 橋目 はしめ 834-1番地、 840番地 | 39323 | 190113 | 42° 03' 30" | 133° 36' 540" | 試掘確認 調査 平成15年 9月26日～ 9月30日 発掘調査 平成15年 10月15日～ 10月28日 | 試掘確認 調査 20m ² 発掘調査 55.6m ² | 町民グラウンド 防球ネット 新設工事に伴 う埋蔵文化財 発掘調査 |
| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| ひびのき岡ノ 神母遺跡 | 散布地 集落跡 | 弥生 ↓ 中世 | 柱穴6 土坑3 自然流路1 | 弥生土器 須恵器 土師質土器 | 自然流路より、多數 の弥生時代後期土器 が出土している | | | |

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第34集

ひびのき岡ノ神母遺跡

町民グラウンド防球ネット新設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成16年9月24日

編集・発行 土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町岩積365-1

TEL 0887-53-3111 (代表)

印刷 有限会社西村謄写堂

